

クラブ会長方針 「『奉仕』と『親睦』を通じて仲間を増やそう！」

スローガン 「若手・女性会員に魅力あるクラブへ成長しよう！」



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

名古屋名駅ロータリークラブ
承認：1991年4月17日
例会日：水曜日 12:30～
例会場：名鉄グランドホテル会長：笹谷俊道
副会長：加藤定伸
幹事：岩井孝真
クラブ会報：森 美穂2021-22年度 R.I. 会長
シェカール・メータ

●名古屋名駅ロータリークラブ事務局：TEL.052-433-8160 FAX.052-433-8161 E-mail: meiekirc@f5.dion.ne.jp http://www.nagoya-meiekirc.com

第1412回例会
(洋食)

創立31周年記念例会

口は細菌やウイルスの入口。口腔ケアを大切に！

2022年4月13日(水)

(令和4年)晴 No.30

□司会 山田晃也 会場運営委員

□ゲスト紹介

日本大学歯学部 感染症免疫学講座

教授 今井健一様

□出席報告

会員総数80名(免除者13名)

義務者出席53名 免除者出席6名 名誉会員出席1名(Zoom)

総数60名 出席率80.82%



会長あいさつ

笹谷俊道会長

今日は創立31周年記念例会です。また、創立以来毎年続けている椿賞の表彰式を行います。椿賞受賞者は日本大学歯学部教授

の今井健一先生です。後程たっぷりお話を伺います。

本日はビデオも収録しておりますし、中部経済新聞社と中日新聞の記者さんもお見えです。記事に載せて頂いたら皆さんお読み頂きたいと思います。

本日は創立31周年記念例会ですが、名駅RCは創立が1991年4月3日(水)、承認が2週間後の1991年4月17日(水)です。チャーターメンバー66名でスタートしました。スポンサークラブは名古屋西RCです。

創立した1991年は日本経済はバブルの真っ盛りでした。1989年に日経平均株価が3万8915円となりました。翌1990年にはゴルフの会員権がピークとなり、どのクラブも1億円を超えるという現象が起きました。その翌年、名駅RCが創立・承認された1991年には、土地価格のピークが来ました。その後、失われた10年、20年、30年と日本経済はたどっておりますが、ここに来てウクライナ問題等々が起こり、1つの潮目として日本経済が大きく変化しようとしているような感じがします。

創立当時の特別代表は薦田国雄さんでした。初代会長は皆さんよくご存じの佐藤勤三さんです。「名駅から世界へ」という大きなスローガンを我々に与

えて頂いた方です。私と一緒に桑名市の出身です。初代幹事は佐竹 弘さんです。早いものでそれから今年で31期目ということになります。

本日は椿賞の表彰式を行います。椿賞のテーマは、佐藤勤三初代会長から与えて頂いた「名駅から世界へ」です。本日の受賞者・今井健一先生も名駅から世界へと羽ばたいて頂きたいと思います。

□幹事報告

岩井孝真幹事

(1)次週4月20日(水)は、4月23日(土) WFF会場での開催に変更です(10時45分～、エディオン久屋広場 例会ゾーン)。雨天の場合は場所が変更されます。分からなければ幹事の携帯にご連絡下さい。また、チケットはクラブ購入分に余りがあります。追加希望の方は事務局にご連絡下さい。

(2)4月27日(水)と5月4日(水)の例会は休会。次回のグランドホテルでの例会は5月11日(水)です。

(3)4月27日(水)の和合・東山記念事業について八神純子さんご本人からメッセージが届いています。席に余裕があり、当クラブの参加者が少ないので、事業の趣旨にご理解頂き、是非お申込み下さい。

(4)地区研修・協議会が4月17日(日)に開催されます。昼食は11時30分、本会議開始は13時です。登録者のメールボックスへ名札と当日案内をお入れしました。名札のストラップの色により会場到着後の行き先が違いますのでご注意ください。また、名札には参加する分科会などが記載されていますのでご確認ください。当日のプログラム冊子は昼食会場または本会議口ビーで配布されます。本会議場

4月は母子の健康月間/名駅RC 春の健康感謝月間です

< 例会開催予定 >

◇第1413回4月23日(土) 例会変更

WFF 会場：エディオン久屋広場 例会ゾーン

開始：10時45分

4月20日(水) 4月23日(土) WFFに変更

◇第1414回5月11日(水) 通常例会

誕生日・結婚記念日祝福 「ロータリーの友」5月号配布

新会員卓話 田中義明さん 入会式(2名)

4月27日(水)・5月4日(水) 休会 定款第7条第1節(d)(1)取消

では、西名古屋分区のエリアに宮下副幹事と森次期副幹事が待機しています。

(5)本日例会後、第10回理事会を開催します。

□「全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」のご案内

清水順二実行委員長

5月4日(水)、全日本RC親睦合唱祭が名古屋で開催されます。全国から17の合唱団、約300名が参加します。沓名ガバナー、笹谷会長にもご臨席頂きます。是非ご来場下さい。チケットはコール・カメラのメンバーか事務局にお申し出下さい。そして、ボランティアに応募頂いた皆様、朝早くからですが宜しくお願いします。その代わりと言ってはなんですが、合唱祭の後、東急ホテルでの懇親会に半額の5000円でご参加頂けます。奮ってご参加下さい。

また、プログラムの協賛広告に、名駅RCからも多くの企業・団体の協賛を頂きました。お礼を申し上げます。刷り上がったプログラムと共に請求書をお送りしますので宜しくお願いします。

第31回 椿賞表彰式

椿賞委員会 米坂みよ古委員長

椿賞は名駅RCの創立時より、「名駅から世界へ」のテーマのもと、社会のため、人のため、よりよい社会環境づくりに努力されている個人または団体を表彰する名駅RC独自の事業です。毎年創立記念日に表彰を続けて本年度で31回目です。

本年度の椿賞は、歯科では珍しいウイルスの専門家として精力的に研究活動をされている今井健一様に贈呈することとなりました。今井健一様のご紹介は、推薦者の高田統夫さんよりお願いします。

◇受賞者紹介 高田統夫さん

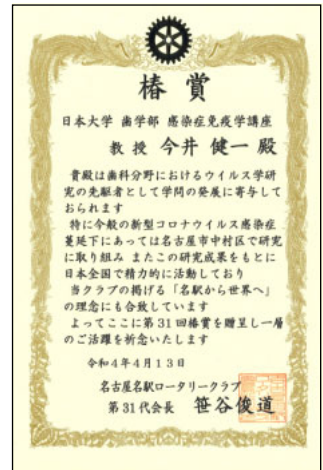
今井先生は昭和47年生まれ、現在49歳、岐阜県のご出身です。1997年に朝日大学歯学部をご卒業。2001年に明海大学大学院歯学研究科を修了、歯学博士号を取得されました。2001年から名古屋市立大学医学研究科細胞分子生物学でPostdoctoral Fellow、そして助教として研究活動に邁進されました。この2001年に私は同じ研究室で研究しており、それ以来20年程の付き合いです。2010年から日本大学歯学部細菌学講座(現 感染症免疫学講座)に移られ、専任講師、准教授を経て2016年に教授に就任されました。就任時は43歳で、日本大学歯学部において最年少での教授就任ということです。愛知学院大学、朝日大学、九州大学、昭和大学の兼任講師も務められ、第24回歯科基礎医学会奨励賞をはじめ数多くの賞も受賞されています。

今井先生は歯科では珍しいウイルスの専門家です。コロナが始まってからは、2020年9月から何度も名古屋の私のクリニックまでお越し頂き、患者さんから直接唾液のサンプルを採取して唾液中のウイルス量を解析する研究などをされており、数多くの論文を発表されています。日本歯科医師会の新たな感染症を踏まえた歯科診療の指針作成タスクチームの委員や、日本の歯科医学会連合会及び口腔

衛生学会新型コロナウイルス感染症対策チームの委員なども務められており、今や歯科領域における新型コロナウイルス研究の第一人者です。

今井先生から最初に一緒にコロナの研究をしないかとお誘いを受けた時に、「社会貢献だと思って手伝ってくんか?」と言われ、ロータリアンの端くれとして琴線に触れるものがあり、協力をして今に至るということです。

◇表彰状・副賞目録授与



椿賞受賞記念卓話



「お口と全身の健康

～コロナにおいても
お口はとても重要～」

日本大学歯学部感染症免疫学講座
教授 今井健一様

この度は名誉ある賞を頂き、ありがとうございました。私は、日本大学で感染症や免疫の研究をしています。

お口の健康は全身の健康にもとても大事です。口は食べ物や飲み物の入口であると同時に、細菌やウイルスの入口でもあります。新型コロナもそうですが、口が色々な病気に深く関わっています。特に歯を失う歯周病は、全身の様々な病気を引き起こします。

私ももうすぐ50歳になります。そろそろ老後のことも考えなくてはならない年となってまいりましたが、老後の楽しみには蓄えが重要です。しかし、ここにおられる皆様はお金の心配はない方がほとんどだと思います。では何が重要かと言いますと、意外と歯なんです。50歳、60歳と年齢を重ねるとつれ、歯を失っていきます。私も3年前に奥歯が折れて40万円位かけてインプラントを入れましたが、やはり歯がないと、ものが噛めない、話にくい、など非常に厄介です。例えば1本100万円、いやそれ以上でも歯が元通りになるなら、皆様はそれくらい払ってでも自分の歯を取り戻したいと思われませんか? しかし、それは叶いません。

平均寿命は、女性は90歳近くに、男性も80歳を超えました。ただ健康寿命と平均寿命とでは10歳

の開きがあります。寿命が延びれば延びる程、健康でない期間も延びるということです。その時にやはり歯があるかどうかはすごく大事なのです。歯というのは、失ってからその重要性に気づきます。そこが非常に厄介です。例えば、お腹が痛いのが続いたり、高熱が出た、という時はすぐ病院に行くと思います。でも歯が少し腫れたり、少しぐらぐらしたりするくらいではなかなか歯科医院には行きません。そして、行った時にはもう抜かなければいけないという状態も少なくありません。

歯科では平成元年から「8020運動」を行っています。80歳で20本歯を残しましょうということです。それを達成する高齢者が増えています。アンケートで高齢者の方に「何をしている時が楽しいですか？」とお尋ねしますと、歯が沢山ある人は、旅行、スポーツ、仕事、友人との会話、食事、街歩き、孫の相手という答えが多く、活動的です。一方、歯が少ない人では、テレビを見ること、と答える人が一番多いんですね。どうしても、歯がないと日々の生活が困難になります。オーラルフレール(口の衰え)が全身のフレールになってしまう、いわゆる負のサイクルに入り込み、引きこもってテレビしか見ない、会話もしない、会食もしない、となってしまうのです。

● 歯周病と全身の病気の話

では、なぜ歯を失うかと言いますと、現在では虫歯で失うことは減っていて約3割、歯周病が約4割です。虫歯でなく、歯周病で歯をなくす方が多いのです。歯周病は歯自体の病気ではなく、歯の周りの歯肉とその下にある骨の炎症です。歯茎がそんなに悪くなさそうに見えても、歯茎の下にある、歯を支えている骨(歯槽骨)が溶けて無くなってしまう病気です。歯周病は、軽度なものも含めると30歳以上の約7割が罹っています。私も含めてここにいるほとんどの人が何らかの歯周病に罹っているということになります。ギネスブックにも、歯周病は世界で最もまん延している感染症として登録されています。歯周病の原因は細菌ですが、最近ではウイルスも歯周病に関係していると考えられるようになり、現在、それを解明するための研究も行っています。歯と歯茎との境目・歯周ポケットに沢山の菌が溜まり、炎症を引き起こす訳です。その代表的な菌がジンジバリス菌です。

重要なことは、歯周病や口の炎症が全身の病気の引き金になることです。ここ20年程で分かってきたことですが、他大学含め特に医学部の先生方といくつかの共同研究を進めています。歯科がここまで注目されるのは、それが口の健康だけではなく、全身へとつながっているからです。歯茎の中に骨があってそこに歯の根っこが埋まっているのですが、骨が溶けていくと歯がどんどんぐらぐらになり、最後は抜けてしまいます。この過程では、炎症物質が沢山出ています。お口の血管は全身とつながっていますので、この炎症物質がすぐに全身に移行します。菌も移行します。更に口の菌が唾液に混ざり、肺に直接落ちたり腸管まで行ったりします。口と肺や腸管

から肛門は1本の管でつながっているからです。

歯周病が引き起こす疾患で一番有名なのが肺炎です。それから肺の慢性の炎症疾患であるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の他、インフルエンザ、糖尿病、早産など胎児への影響などがあります。更に心血管疾患(感染性心内膜炎など)では心臓からお口の菌が見つかることが珍しくありません。また、アルツハイマー病では脳で歯周病菌が悪さをしているとも言われています。今最もトピックスとなっているのは腸管です。腸のディスバイオーシスと言われるのですが、腸の菌のバランスをも歯周病菌は乱します。口と腸とは1本の管でつながっていますが、腸の炎症に関わる菌の3分の1位が口腔由来だと言うようなことも最先端の研究で分かっています。

● 口腔ケアで肺炎を予防

ここから肺炎の話をして頂きます。今、肺炎が死因の第3位になっており、非常に増えています。皆様がこれから注意しなければいけないのは、特に誤嚥性肺炎です。高齢者の肺炎のほとんどが誤嚥性肺炎だからです。高齢になればなるほど、むせる、すなわち咳をする力や、飲み込む力が弱まります。例えば食べ物の間違って肺の方に入った時、元気なうちは、まだむせることにより吐き出せますが、高齢になると喉の筋肉が弱まり、寝ている時にも誤嚥をしてしまいます。口腔の菌が沢山混った唾液を、知らないうちに肺の中に飲み込んでいます。そのため肺で炎症が起こるとというのが誤嚥性肺炎です。誤嚥性肺炎の原因菌の多くが歯周病原菌、すなわち口腔細菌だと言われます。

そのエビデンスとして、30年程前、「ランセット」という有名な雑誌に出た素晴らしい研究があります。口腔ケアをして口をきれいにすると誤嚥性肺炎を予防でき、肺炎による死亡を40%減少させることができた、というものです。この研究を皮切りに、歯科以外にも医師や看護師さんたちが口腔ケア、肺炎の予防に対して積極的になりました。今では手術前に口腔ケアをする病院がかなり多くなっています。なぜかという、手術する時に気管挿管をするのですが、それまでは癌の手術は成功したけれど合併症で肺炎となってしまう、患者さんが命を落としてしまうということが続いていたのです。口が汚いまま気管挿管などをすると、口の悪い菌を肺に流し込んでいることになるからです。平成24年からは、口腔ケアに保険点数が加算されるようになり、病院が積極的に口腔ケアをするようになりました。

実際に、口腔ケアをすると肺炎の合併症が64%から16%に大きく下がりました。また、癌手術後の入院日数も口腔ケアをすると短縮した、というようなデータが報告されています。このようなことから、口がきれいになれば肺の炎症も治まることはイメージできるかもしれませんが、一方で、ではなぜ口腔ケアが良いのか? という実によく分かっていませんでした。そこで私たちは口腔の菌と肺炎との関係を研究してみました。歯周病を起こす菌をねずみの肺に入れると、このねずみの肺は真っ赤になって

しまっており、強い炎症が起こっているのがお分かりになると思います。この時の炎症物質を測ると、肺炎を起こす肺炎球菌より、歯周病原菌を入れた方が10倍以上の炎症物質が出ていることが分かりました。新型コロナでも口が汚いとその人は重症化しやすいというデータが出つつあります。コロナの患者さんも高齢になればコロナで熱が出た時に歯磨きがしにくくなり、それによってウイルス性の肺炎と相まって細菌性の、すなわち歯周病原菌による肺炎も起きてしまうのではないかと考えています。

● 口腔は新型コロナウイルスの製造場所

最後に、新型コロナの話をして頂きます。今日「口腔は新型コロナウイルスの製造場所」とも言われています。去年、有名な「ネイチャー・メディシン」という雑誌に発表されたものですが、我々の唾液の中には沢山ウイルスがあり、唾液が出る唾液腺からもウイルスが沢山出ているのです。そして舌や歯茎の細胞にウイルスが取りつき、そこで増えることも分かりました。ウイルスは私たちの喉や肺の細胞の表面にあるACE2という受容体にくっつくことで我々の体に侵入します。このACE2も、舌や歯茎に沢山あることが分かってきました。ですからコロナに罹ると舌にも感染するので味覚障害が起こるのではと考えられています。去年6月27日付の朝日新聞に、お口は新型コロナにおいて非常に重要だという記事が出ました。私も編集に携わりましたが、ウイルスは口から入って肺に行き、肺で増えます。または、腸管まで行って腸管でも増えるので下痢にもなります。口と肺や腸は1本の管でつながっているのです、このようなことが起こるのです。

コロナが流行して間もない2年前の今頃、実際に口の中にどれだけウイルスがいるのか研究をしよう、と考えました。しかし当時は初めて緊急事態宣言が出た頃で、どこの大学病院も患者さんを診るので精一杯でした。そんな時、何気ない会話から高田先生に協力して頂くことになりました。当時高田先生は早々に自分の病院に発熱外来を作られ、中村区で一番コロナを診ている医師でした。ここで研究をさせてもらえたら、とお願いいたしますと、高田先生には快く受け入れて頂きました。高田先生とは20年くらい前に名古屋市立大学で一緒に研究をしていましたので、研究自体に造詣が、また、開業医ということで大学病院より曜日や時間帯など研究の融通が利きやすいこともあり、非常にありがたく、今も共同研究を実施させて頂いています。

最初の頃は高田先生のクリニックでの陽性率が10%、20%でもビクビクしながら研究していたのですが、最近のデルタやオミクロン株の流行では陽性率が8割という大変な状況下で唾液などのサンプル採取を行っていました。実際の研究の様子については、歯科界ではメジャーな「歯界展望」という雑誌に高田先生と一緒にレポートを書きました。



唾液を頂き色々な研究を行っていますが、その中で検査法の開発もしております。熱が出ている人や高齢者はなかなか唾液が出ません。そこで、舌にも沢山ウイルスがいるのでそれを綿棒でめぐった方が感度がいいのではないかと、それで検査もできるのではないかと考え研究を行いました。その結果、舌には唾液中と同じくらいのウイルスがいて、非常に検査に有効だと分かり、論文としてまとめております。これにより、寝たきりの人や赤ちゃんにも検査ができるようになりました。

デルタやオミクロンは非常に感染効率が高いと言われています。その理由には、ウイルスがACE2受容体にひっつきやすい、感染のサイクルが早い、空気感染をするんじゃないか、など色々な説があるのですが、私と高田先生は、デルタやオミクロンはそもそも唾液中のウイルス量が多いのではないかと単純に考えました。口の中に、100個ウイルスがいるよりも1万個いた方が感染効率は上がる訳です。しかし、それまで唾液中に何個ウイルスがあるかは、世界的に知られていませんでした。そこで我々が実際にどれだけの量があるのか数えてみますと、唾液1ml、ちょうど小指の先くらいの中に新型コロナウイルスが1億~10億個もいることが分かりました。また、デルタやオミクロンのウイルス量は、2年前の初期のウイルスと比べて15倍も多いということも突き止めました。ですので、そもそも15倍もウイルス量が多いので感染効率も高いのではないかと考え、成果の一部を論文として発表しました。

本日は色々お話をさせて頂きましたが、お口は健康の一丁目一番地です。歯がなくなってからその重要性に気づきませんが、口は非常に大事だということをお話しさせて頂きました。本日はこのような機会を与えて頂き、笹谷会長、米坂椿賞委員長に感謝の意を表すると共に、友人であり同志でもある高田先生に改めて感謝申し上げます。このような賞を頂いたことを励みに、今後益々世界へ研究成果を発表していき、皆様にこのご恩をお返しできればと考えております。本日は誠にありがとうございました。

ニコボックス

- 椿賞受賞の今井健一先生、おめでとうございます。先生の記念卓話を楽しみにしています。(笹谷俊道さん)
- 今井健一様、椿賞受賞おめでとうございます。益々のご活躍を期待しています。(岩井孝真さん)
- ①31周年記念例会を祝して。②椿賞受賞の今井健一先生、おめでとうございます。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。(神野重行さん)
- 義母の100歳のパーティをやることができました。(藤井圓隆さん)
- 今井先生、椿賞受賞おめでとうございます。論文どんどん書きましょう。(高田統夫さん)
- 第31回創立記念・椿賞表彰を祝って。(寺島洋治さん)
- 今井健一先生、椿賞おめでとうございます。(西川達郎さん)
- 久しぶりですが、宜しくお願い致します。(久田勘驥さん)
- 結婚記念日にきれいなお花を頂戴し、びっくりしました。ありがとうございます。(田中義明さん)
- 新入職員を多数迎えました。コロナは今年度末までに普通のウイルスになると信じています。(両角國男さん)
- 健康に感謝して。(2名)
- その他、結婚記念日の方2名よりご芳志を頂きました。